

氷蓄熱システムによる清涼飲料水の急速冷却

この工場では、ペットボトルおよびニューボトル缶の清涼飲料水を生産しています。今回は、製品の品質向上を目的に氷蓄熱システムを導入しました。

このシステムの導入により、チルド水（1～2℃）の供給が可能となったため、製品の急速冷却（30℃→20℃）により、製品の品質が向上しました。また、冷却時間の短縮による効率化も図ることができました。

同時に、事務所の空調にも蓄熱システムを採用しています。

改善効果

蓄熱調整割引額 約200万円/年

設備概要

氷蓄熱チラーユニット（プロセス冷却用）

- (11kW×2台)×1セット 氷蓄熱槽 8m³
- (19kW×1台)×2セット 氷蓄熱槽 9m³
- (19kW×2台)×1セット 氷蓄熱槽 16m³
- (19kW×2台)×1セット 氷蓄熱槽 16.5m³

氷蓄熱式ビルマルチエアコン（事務所空調用）

- 7.5kW×3セット 氷蓄熱槽 6.6m³
- 9.25kW×4セット 氷蓄熱槽 8.8m³

〈システム図〉

